

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>入居者のニーズを把握しながら、理念をもとに、地域の中で暮らせるよう取り組んでいる。</p>	○	地域密着型サービスとして、地域に対し理解を上げたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>理念を事務所に掲示し、朝礼会議などで話し合い、理念に沿った実践ができるよう取り組んでいる。</p>	○	常時、全職員に理念の意識づけをし理解を深めていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>地域活動の情報を集め、機会あるごとに理解していただけるよう、交流を図っている。</p>	○	行事などに積極的に参加し、理解していただけるよう取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>散歩や外出時には、こちらから必ず挨拶することとし、気軽に声をかけていただける雰囲気にも努めている。</p>	○	隣近所との良い関係づくりを構築し、緊急時の連携を考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域活動の情報を集め、交流を図るようにしている。</p>	○	自治会、地域活動に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症施設の受け入れ相談を行っている。会議などで、地域高齢者への支援の方法も話し合っている。	○	地域へ出て介護相談や介護教室を行いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価、外部評価の意義を認識し、良い支援ができるよう取り組んでいる。	○	評価の内容を活かして、全職員が検討し、改善が早急にできるよう意識づけていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施している。 会議の都度、現在の施設情報を報告し、運営委員の意見を参考にしてサービス向上に活かしている。	○	会議での意見を参考に、地域との連携を深めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報提供や情報収集を行ったり、市との連携づくりに努めている。	○	今後も事業所で行っているサービスの質を向上させるため、意見を提供してもらえるよう市との連携を深めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	会議の中で話し合いや、研修を行っている。	○	利用者の相談、家族への支援に役立て対応したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関し研修を行ったり、自己研鑽をしている。 事業所内では虐待はみられない。	○	今後も虐待がないよう、全職員が意識し防止に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理責任者が文書に沿って、利用者や家族が納得できるまで十分説明している。	○	十分な時間を設け、安心して任せてもらえるよう行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・不満・相談内容は文書に残し、それを速やかに検討し対応、改善している。 運営推進委員会、家族会などを設けている。	○	入居者の日々の思いや態度を受け止め、全職員で改善するよう、さらに支援したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に詳しく報告し、特変時には電話で速やかに連絡している。コミュニケーションを大切にし、話す機会を多く持つよう心掛けている。	○	社内報やホームページで情報提供をしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会、運営推進会議などで意見をいただき、対応、改善している。	○	家族などからの改善点に対する意見は、積極的に受け入れ、サービスの向上につなげたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常業務の中で職員から意見や提案を聞き、業務改善やサービス向上に役立てている。	○	素直な意見や提案が聞け、一緒に検討する姿勢を心掛けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態や生活の流れを支援するために、必要な職員の確保を行い臨機応変に対応している。	○	入居者の状況変化に対応するため、早めに話し合い改善を行うようにしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を心掛け、職員のローテーションに配慮している。	○	職員の異動、離職時は早めに引継ぎをし、新しい職員が慣れるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を計画し、外部研修への出席を計画し実行している。 研修内容に関することを業務の中で実践に活かしている。	○	社内外への研修の参加により資質の向上を行うと共に、各自が意識して参加するよう助言していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加や見学の機会に、同業者と連携を深めるようにしている。	○	同業者との相互訪問や勉強会の機会を持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みや、職員が相談できる関係づくりを心掛け配慮している。	○	その都度、相談できる体制を整えている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の勤務内容を把握し、配慮している。	○	常時、職員が向上心を持つことできているかどうかを見極め、各自に応じた体制づくりに努めている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族から状況を聴くことにより、安心して利用できる配慮をし信頼関係を築いている。	○	面談の機会を増やし、馴染みの関係づくりに配慮している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話を熱心に聴くことから、相談にのり不安を取り除き信頼関係を築いている。	○	家族が納得いくまで説明している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の表面のニーズだけでなく、隠れたニーズも見極め対応している。	○	今、一番必要な支援は何かを見極め、他の事業所との連携を図り対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、必ず本人、家族などにホームの雰囲気や生活状況を見てもらい、職員と面談、相談しながら、納得された上で利用している。	○	体験入所ができ、馴染みが深められるようゆっくりと対応している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の立場に立ち、人生の先輩として言葉がけや対応に配慮しながら、共に学び楽しむことのできる関係を築いている。	○	全職員が利用者を「一人の人間」として尊重し、人権やプライバシー保護を考え実践している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の話をよく聴き相談し、本人にとって一番良い方法を考え、共に支援している。	○	家族との連携を密にし、さらに協力し合えるよう配慮をしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や電話連絡により、利用者の状態を説明し、今までの関係を考慮し対応している。	○	本人と家族が良い関係を築けるよう、随時家族と話し合っていく時間を多く取りたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会時には、本人と話しができる環境づくりをし、面会後は家人に報告している。	○	本人がこれまで大切にしてきた人や物の関係が、継続できるような配慮を、家人と共になら行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を職員が把握し、助け合い支え合っていることを大切にし、見守り支援している。	○	利用者同士の信頼関係も見られる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も状況をお聞きし、相談にのり事業所側から支援し、利用者、家族との関係を大切にしている。	○	介護支援専門員と連携を図りながら、継続的に支援を行っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場で考えることを第一とし、家族の要望もできるだけ反映させるよう努めている。	○	生き生きとした生活の支援ができるよう、十分に検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聴いたり、以前利用していたサービス事業所に確認し把握している。	○	これまでの暮らしの把握を全職員が共有することでサービスの向上に役立つが、プライバシーにも注意し対応している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の残存機能に応じ生活していただいているため、全職員が本人の現状を総合的に把握できるよう努めている。	○	全職員に日頃の観察力や注意力の大切さを意識づけている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に利用者の立場で考え、本人や家族と話し合い、朝の申し送りの時間に、日勤・夜勤の情報交換をし、介護計画を作成している。	○	情報を収集し、具体的なサービスを心掛けている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間終了時、入居者の状態変化時には見直しを実施している。月1回は必ずモニタリングをしている。	○	毎月のモニタリングは、利用者の状況の把握ができていないかの確認にもなり継続している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に心身の状況や健康管理上の記録をし、職員の共通の情報としている。介護計画の見直しにも参考に活かしている。	○	個別記録は、家族への情報として、日常生活状況や身体状態も理解していただくために活用している。また、病院受診時の診療の参考になる記録ができるよう配慮をしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人を第一とし家族の要望にも沿える支援を考え、臨機応変に対応している。	○	他の事業所サービスも考え支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会と連携を図りながら、ボランティアで行事に参加していただき、協力しながら支援している。	○	地域での協力体制の強化がもっと図れるよう、情報収集をしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーや事業所と話す機会をつくり、情報を収集している。	○	積極的に他のサービスを活用できるよう支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方に運営推進会議に参加いただいているので、情報交換している。	○	連携を図りながら相談に行っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族などの希望のかかりつけ医の医療を受けていただけるよう支援している。	○	各々のかかりつけ医と情報の共有ができるよう、信頼関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に一度、協力医療機関の医師が往診に来、診察を受けており職員の相談にも応じてもらっている。	○	医師と職員との信頼関係を深め、連携を図っていききたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同社で連携している訪問看護ステーションの職員が健康管理や医療的な支援をしている。	○	地域の保健指導者とも連携を図っていききたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の治療や退院はもちろん、退院後の相談にも応じていただける体制になっている。	○	かかりつけ医や看護師と連携を図りながら支援している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からの相談に応じられる体制を取っており、職員は当事業所が作成している「ターミナルケアの指針」に沿って方針を共有している。	○	ターミナルケアへの研修も行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と相談しながら、介護・看護職員が話し合い支援に取り組んでいる。	○	かかりつけ医や家族と相談できる場・時間を多くとり、安心してもらえるよう取り組んでいる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	プライバシーに配慮しながら情報提供を行い、継続的に支援している。	○	必要時、職員で話し合い共通のケアで支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の基本事項とし、入居者のプライドを傷つけず、プライバシーを守ることを心掛け支援している。個人情報保護に努めている。	○ 認知症を理解し、人格を尊重する重要性を職員各自は認識している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	和やかに話せる雰囲気づくりに心掛けて、ゆっくりと短い言葉で個々に応じた支援をしている。また、自己決定できる環境に配慮している。	○ 全職員が、個々に応じた支援方法ができるように努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のかかわりの中で、一人ひとりが何を希望されているのかを把握し、見守り支援をしている。	○ 希望を表出できない入居者にも寄り添い、コミュニケーションを取り支援するよう心掛けている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は、家族、本人に意見を聞き対応している。毎月一回専門の理容師が来ている。	○ 衣類が汚れたらすぐ取り替え清潔にしている。入居者自身が身だしなみの意識をもつよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつはできるだけ利用者が一緒に食べ、楽しく食べていただけるよう、声掛けや話題づくりに気をつけている。	○ 食事介助の時はプライドを傷つけないよう支援している。食後の下膳、洗い物も進んでして下さっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みの物を把握し、その日の健康状態にも注意し楽しめるよう支援している。	○ お酒も希望なら飲めるよう用意している。食事について、バイキング的なことも工夫し取り入れたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表を作成し、排泄時間を正確に把握しトイレ誘導を行っている。	○	日中は、トイレで排泄するよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	プライバシーに配慮しながら、その人に合った時間に入浴していただいている。	○	一人ひとりの身体の状態を観察したり、バイタルサインチェックの結果などで入浴が可能かどうかの判断を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日の生活を一人ひとりのリズムを大切に、メリハリのある生活になるよう支援している。	○	一人ひとりの健康状態を把握し、必要と思ったら休んでいただくよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役に立つ喜び、できる喜び、手伝える喜びを感じていただけるよう、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	○	入居者の立場に立ち、「何をしていただけるか」「何がしたいか」を考え支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる入居者には、家族と相談した上でお金を持っている。	○	職員、家族がお金の管理について、入居者の状況判断し対応している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、屋外でのおやつや遊びなど、できるだけ屋外で過ごすよう心掛けて支援している。	○	積極的に屋外へ出掛ける体制をつくり、気分転換を図れるよう外出支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者、家族の要望に応じ支援している。今後も希望を聞きながら支援を続けたい。	○	一人ひとりの健康状態や歩行状態を考慮し、できるだけ多く支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などからの電話の取次ぎをしたり、電話をかけていた だいている。手紙や葉書きを出すよう依頼されることもある。	○	いつまでも、電話や手紙のやり取りができるよう支援して いきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ご せるよう工夫している	気軽に訪問していただける環境、雰囲気づくりを心掛けて いる。	○	遠慮なく気楽に来ていただけるよう、コミュニケーションを 図りプライバシーに配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定 基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行っており、職員は十分理解 し身体拘束は行っていない。	○	今後も、職員で話し合いの場をもち、身体拘束をしない ケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関 に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を かけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずにチャイムで対応している。自由に外へ 行かれても見守り支援している。	○	鍵をかけていないため、出られてもすぐに職員が対応す る習慣が身についている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している	入居者の状況確認(安全確認)は常時行っている。	○	職員が危機管理意識をもち、安全に生活していただける よう周知し配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	包丁やハサミ、洗剤など危険な物は扉の中や引出しに片 付けている。 自分で持っている方には、本人、家族にも注意をお願いして いる。	○	認知の進行と共に状態が変化するため、常時観察し注 意している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの行動や能力を把握し職員で話し合っている。 また、研修も行い事故防止に取り組んでいる。	○	より安心して生活できるよう、改善できるところはすぐに対 応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修や勉強会に参加し、事故発生時に備え訓練を実施している。	○	もっと詳しいマニュアルを作成し、周知徹底させたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防火訓練を行い、入居者も一緒に消火訓練をしている。	○	消防署や地域の協力体制が得られるよう検討をしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	機会あるごとに家族や本人と話し合いの場を持っている。	○	より安全で安心して生活していただけるよう、リスクを予見し支援を行っていききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	病気に対する予防と、一般的な知識や対応方法の研修を行い役立っている。 看護師、かかりつけ医と連携を図り対応している。	○	応急処置の仕方の習得や、医療機関との連携を深め支援していききたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人別にファイルして、全職員が分かるようにしている。一人ひとりの薬の副作用や用法、用量について把握して、誤薬のないよう特に注意している。	○	医師の指示通り服薬管理し、責任者を決めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んだり、水分を多くとっていただいている。また、繊維の多い食物を摂取できるよう献立を考えている。体操や散歩など、身体を動かすようにしている。	○	医師や看護師と連携を図りながら、便秘予防のために取り入れられることを行っていききたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分でできる人には、声掛けをし実施していただいている。できない方は見守りや介助をし支援している。	○	歯科医の往診が週に2～3回あり口腔ケアを実施している。 歯科検診も行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立を作成している。 食事量のチェックは必ず介護記録に記入している。	○	1日の水分補給量を記入することを考えている。 日常の健康管理上からも細かい支援を行っていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルにより職員に徹底している。手洗い、うがいの実施する習慣を身につけている。	○	市からの情報や他の情報にも注意している。 衛生管理は、常時職員に促し意識づけをしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類の衛生管理は、高温・乾燥できる設備を設置し、十分に配慮している。 食材も毎回買い物に行き新鮮で安全な物を使用している。	○	衛生管理は、常時職員に促し意識づけをしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	桜やバラ、水仙などを植え近所の方にも見ていただいている。 玄関にも花を飾るよう心掛けている。	○	玄関には四季折々の花はもちろん、入居者が摘んだ草花も生けている。 建物は木造作りなので、家庭的な雰囲気は十分ある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内どこにいても、自然の採光が取り入れられるようになっている。 居室、食堂に花を生け季節感を味わっていただいている。	○	入居者の意見も尋ねながら、居心地よく過ごせるよう工夫してきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間、マッサージチェアを置き、くつろげるようにしている。	○	職員が傍にいて、ゆっくり過ごせる居場所づくりを心掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族が相談し、使い慣れた物や、その時にあった物を持って来られ、安心して居心地よく過ごせるようにしている。	○	一人ひとりの状況、状態に合わせ、それぞれに合った対応に配慮していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓や戸を開け換気を行っている。そのため気になる臭いも少ない。 こまめに温度管理・湿度管理をしている。	○	清掃、清潔を促し、汚れた時は素早く始末することで異臭を無くしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置したり、椅子を置き工夫している。 入浴は一人で入れるよう、台、すべり止め、介助バーなど、その人に合った補助具を使用している。	○	移動不安や入浴不安な方は必ず職員が見守っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは居室の横にあり分かりやすく混乱は少ないが、分からない方には、張り紙をしたり誘導をしている。	○	その人が持っている力を活かせるよう、配慮しながら繰り返し支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りや中庭には、休憩したり談笑したりなど、椅子とテーブルを置いている。洗濯物を干せるようにしている。	○	入居者に活動の場を提供し、楽しんでいただくことを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・介護、看護、医療の連携を図り、入居者の健康管理を充実させ安定した生活を支援している。
- ・入居者と過ごす時間を大切に、職員が穏やかに明るい態度で接し安心感をもっていただけるよう対応している。
- ・本人、家族に満足していただけるよう、些細なことでも気づきや誠意をもって日々お世話し、「普通の生活」を送っていただけるよう対応している。